

丹 邱 学 舎



令和2年1月31日(金)発行 校長 川崎 朗
自信と誇りを持ち 自ら学び 心豊かに たくましく生き抜く 西溪っ子の育成

君、十有三にして何を志す？

1月23日(木)に7年生の立志式を行いました。立志式とは、江戸時代までは数え年の15歳(現在の14歳)で「元服」という儀式を行い、一人前の大人として認められるようになったという習慣に由来して行われている行事です。県内の中学校でも広く行われており、中学3年生や2年生で実施されている学校が多いのですが、本校では中学年を終えて、いよいよ義務教育の総仕上げの高学年に進むという節目を迎える7年生で行っています。立志式では、保護者の方を前に、一人ひとりの生徒がそれまでの感謝を述べるとともに、将来の夢や自分の志を立て、そこに向かって自分がどのようにしていくのかの決意をもち、それぞれ「座右の銘」という形で短い言葉で表して発表します。

見出しの「君、十有三にして何を志す？(あなたは十三歳で何を志しますか?)」は孔子様の「吾十有五にして学を志す」からいただいた言葉です。この言葉は、「私は十五歳のとき学問に志を立てた」というものですが、実は、この言葉には続きがあります。「三十にして立つ」「四十にして惑はず」「五十にして天命を知る」「六十にして耳順(したがふ)」「七十にして心の欲するところに従えども矩(のり)を踰(こ)えず」です。つまりこの言葉は孔子様が一生を振り返って、その人間形成の過程を述べたものです。この言葉を訳すると「三十歳になると自立できるようになった。」「四十歳になると心に迷うことがなくなった」「五十歳になると、天が自分に与えた使命が自覚できた」「六十歳になると人の言うことが何でも素直に理解できるようになった」「七十歳になると自分のしたいと思うことをそのままやっても人の道を踏み外すことがなくなった」となります。

つまり、長い人生の中で最初すべきことは志を立てることなのです。孔子様は十五歳で学ぶことを志とされました。「志」は一人ひとり違うと思います。勉強でも部活動でも、将来の夢でも進みたい高校でも、趣味や特技に関することでも何でもいいと思います。大切なことは自分の志を立てることです。まず、自分が実現させたいと心から願う「夢」や「目標」をもってそれを実現させるために、何をすべきなのかを考えて行動する。これが一番大切なことだと思います。ここで、7年生一人ひとりの「座右の銘」を紹介します。

荒島華音 「成せばなる」
江副結愛 「感謝」
岡部唯來 「切磋琢磨」
清水祐衣 「感謝」
白木妃菜 「温故知新」
常盤姫奈 「優」
中山翔丸 「努」
平山雛美 「努力」
南 檣馬 「挑戦」
山北美来 「笑」

安藤豪汰 「努力」
大川内友里 「不撓不屈」
小野倫太郎 「勇気」
久保田晴那 「心」
陣内ころろ 「一期一会」
永田夕佳 「笑顔」
西山さくら 「努力」
福島鈴々 「安心立命」
牟田和々人 「和」
山田美咲 「笑顔」

江打 剛 「平常心」
太田琥士郎 「努力」
北川日葵 「臥薪嘗胆」
古賀琉雅 「挑戦」
須賀川志道 「志」
中村太河 「努力」
花田眞奈美 「真」
松尾菜月 「油断大敵」
森永征義 「挑戦」

「未来へ、乾杯!」～自分を大切に～

立志式に際して、佐賀女子短期大学付属佐賀女子高等学校の吉木知也校長先生を講師に迎えての講演を行いました。講演の概略は以下のとおりです。

「人間ってすばらしい」「人生はおもしろい」ことをぜひ感じてほしい。そのためには、**夢を持とう！夢を追いかけてよう！根っこになろう！感性豊かになろう！**

これらを身につけると、より多くの人間のすばらしさ、人生の面白さを感じることが出来る。夢を持つことで、努力すること、辛抱することのできる人間になれる。夢は英語でDREAM。D：努力、R：礼儀、E：笑顔、A：挨拶、M：身だしなみ。これらを大切にすることが、自分の夢に近づくためには必要。

花にはそれを支える葉、葉を支える幹、幹を支える根っこがある。根っこの頑張りは見えない。見えないところで花を支える根っこが分かる人間、根っこになれる人間になろう！

感性を豊かにするために家庭生活、学校生活がある。何にでも一生懸命に取り組むことで、喜怒哀楽が生まれ感性は豊かになる。

これくらいではとても収まりきれないのですが、7年生の生徒や保護者の方々に訴えかけるような本当に心にしみ込むようなお話でした。途中と最後で「未来へ」と「乾杯」の熱唱までしていただき、本当に有意義な時間でありました。



違うって楽しい!～国際理解講座

1月22日(水)に前期課程で国際理解講座を行いました。インフルエンザ流行のため、6年生は学年閉鎖で当日聞けなかったのですが、後日録画したものを視聴しました。

当日は、1～3年生はカルミナ ルイズ ムラカワさん(メキシコ)、4～5年生はチャン ミヨン(張 美永)さん(韓国)を講師にお迎えしてお話をしていただきました。日本との文化や生活習慣の違いなどについて分かりやすくお話をしていただきました。4～5年生では実際に韓国の伝統衣装であるチマチョゴリを児童にも着せていただきました。子どもたちも一生懸命に話を聞いたり質問をしたりと充実した時間が過ごせました。

お二人の話に共通しているのは「違うって楽しい」ということだったと思います。違いを認める気持ち、違いを知って自分の世界が広がるという思いをもつことを、これからの生活の中で大切にしていきたいと思います。

